

## 地震火山子どもサマースクール「丹那断層のひみつ」を終えて

"Secrets of Tanna Fault": childrens's seismology and volcanology summer course

# 佐藤 明子[1], 小山 真人[2], 早川 由紀夫[3], 山岡 耕春[4], 山崎 晴雄[5], 岡本 義雄[6], 数越 達也[7]

# Akiko Sato[1], Masato Koyama[2], Yukio Hayakawa[3], Koshun Yamaoka[4], Haruo Yamazaki[5], Yoshio Okamoto[6], Tatsuya Sugoshi[7]

[1] 神田中学校, [2] 静岡大・教育・総合科学, [3] 群馬大・教育, [4] 名大・理・地震火山センター, [5] 都立大・理・地理, [6] 大阪教育セ, [7] 県立芦屋高

[1] Kanda Juior Hight School, [2] DREAMS, Education, Shizuoka Univ., [3] Faculty of Ed, Gunma Univ, [4] RC. Seis. & Volc., Nagoya University, [5] Dep. Geography, Tokyo Metropolitan Univ., [6] Osaka Pref.Edu.Center, [7] AUSS

<http://sk01.ed.shizuoka.ac.jp/koyama/izu/index.html>

1999年8月20~21日の2日間、伊豆半島北部の静岡県田方郡函南町中央公民館、丹那断層公園、函南町農村環境改善センターなどを会場とし、一般から募集した児童生徒を対象としたサマースクールと一般市民を対象とした関連シンポジウムを企画・実施した。事後、サマースクール参加者に対し郵送によるアンケート調査を行った。参加者22名のうち14名の参加者から回答があったので報告する。なお、具体的な実施状況などの詳細な情報については

<http://sk01.ed.shizuoka.ac.jp/koyama/izu/index.html> を参照してほしい。

## 企画概要

第1日目「地震火山子どもサマースクール」では、伊豆半島周辺の火山や活断層・丹那断層を題材とし、野外での地形・地質観察や室内実験をゲーム形式での説明をおりまぜながら、児童生徒に体験させることによって、活断層や地震・火山災害についての基礎知識を学び、大地の営みについての理解を深めさせることを目的とした。参加者は、小学生(5,6年生)12名、中学生3名、高校生7名、計22名であった。

第2日目一般向けの「地震・火山の理解と防災教育に関するシンポジウム」の参加者は100名程度であった。

「地震火山子どもサマースクール」参加者を対象としたアンケートの結果

アンケートは、第1日目の「地震火山子どもサマースクール」の参加者を対象に行った。質問項目は10項目とし、それぞれ次回の「子どもサマースクール」の開催に向けての反省材料とすることを目的としている。以下に質問項目及び結果を報告する。

1. この行事のことはどのようにして知りましたか。  
ア. 博物館(1名) イ. 役場・公民館 ウ. 友人(4名) エ. 家族(3名) オ. 学校(5名)  
カ. 新聞・テレビ・ラジオ(1名) キ. ホームページ
2. この行事の案内はいつ知りましたか。  
ア. 7月中旬(11名) イ. 8月上旬(1名) ウ. 8月中旬(2名)
3. この行事がまたあるとしたら、どの時期がいいですか。  
ア. 7月下旬(1名) イ. 8月上旬(6名) ウ. 8月中旬(4名) エ. 8月下旬(1名) オ. 冬休み カ. 春休み(2名)
4. 参加してみてどうでしたか。  
ア. 楽しかった(12名) イ. 普通 ウ. あまり楽しくなかった(1名)
5. どのところが良かったですか。複数回答可  
ア. 自己紹介ゲームとチーム分け(4名) イ. なまずカード集め(9名) ウ. 上から見た丹那断層(3名) エ. 丹那断層公園(2名) オ. 昼食(7名) カ. 断層をつくる実験(10名) キ. 液状化実験(7名) ク. なまず博士授与式(3名)  
ケ. 専門家のお話(1名)
6. 専門家の先生のお話はよくわかりましたか。  
ア. よくわかった(8名) イ. 少しわかった(3名) ウ. 少し難しい(3名) エ. かなり難しい
7. 小学校5年生から高校生までの年令の違う人たちの班行動でいた。これについてどう思いますか。  
ア. よかった(12名) イ. よくなかった(1名) ウ. どちらでもない(1名)
8. 行事に宿泊を入れることについてはどうですか。  
ア. 宿泊があったほうが良い(5名) イ. どちらでもよい(5名) ウ. 日帰りのほうがよい(4名)
9. このような行事があったらまた参加したいですか。  
ア. かならず参加する(2名) イ. たぶん参加する(7名) ウ. たぶん参加しない(1名) エ. わからない(4名)
10. 最後に自由に感想を書いて下さい。(一部抜粋)

・高校生ばかりで集まっていたのは気にも留めないことを、小学生の参加者に気づかせてもらったりできたので、小学生から高校生まで年令の違う人たちの班行動というスタイルはこれからも続けてほしいと思います。(高2女)

- ・人数をもう少し多くして、もっとクイズを出して班の皆で考える時間がほしい。(高2男)
- ・とても良い経験ができましたので、今年もいってみたいです。(中1男)
- ・ナマズカード集めがとても印象に残った。今でも家の中にはあります。(小6男)

以上の結果から、本企画はおおむね成果をあげたといえる。募集を知った時期については、企画を知った時期が7月中に集中している。7月の後半以降は、学校が夏休みに入るので口コミでの情報が途絶えるため、夏休みに向けて7月上旬頃までには募集要項を出す必要がある。開催時期については8月上旬から中旬に希望が集中している。子どもたちが行事をきっかけに研究を深めるためにも、8月下旬は不適當である。内容については”実験”が好評であった。また、動機付けとしての”チーム対抗ナマズカード集め”も好評であった。一方、”専門家のお話”は1名のみであったが、ナマズカードは専門家のお話の中で子供たちに渡されたものである。専門家が一方的に与える知識ではなく、子ども達が気づき考えるきっかけを作ったのが専門家であったのはいうまでもない。これは、質問6の専門家の先生のお話がわかりやすかったという評価にもあらわれている。グループ構成については、異年令の縦割りチームが好評であった。感想から、高校生は小学生の発想におどろき、また小学生は自らの意見を年長者に相談するなどの相乗効果があったといえる。質問8については、当初、宿泊を計画していたために入れた項目である。行事に余裕がもて、遠方からの参加者も可能になるなどメリットが高い。

次回開催に向けて

2000年は8月に北海道の有珠・昭和新山地区での1泊2日のスケジュールで、同様の子どもスクールを両学会で検討し始めている。昨夏実施した函南町でも、地元教委が継続したプログラムにできないかと検討しており、学会自体の実施は年1回程度でも、それがそれぞれの地元にユニークなプログラムとして根付くことができれば、意義深いと考えている。